

DaiAn

2011年 1月 5日
心華露光シェリーシェイアト
住持
禅センター シラキユース
シラキユース、ニューヨーク

親愛なる心華老師

貴方は大菩薩禅堂の住持というもう一つの職に付かれ、シラキユース僧伽への援助についての質問のEメールを下さり、今やっと、その返事を書いています。 貴女もお分かりのように、私の思いを整理し、貴女への言葉を探す事に時間がかかりました。

去年の早春、私は島野栄道の、何十年にも渡る彼の女弟子に対する、蹂躪も含む残酷で反社会的な行動の歴史を知る事になりました。 その上、貴女や貴女の多くの同僚の方々は、彼の危険な性癖を長い間知っていた事も分かりました。 それにも構わず貴女は彼の弟子になり、又貴女の弟子を彼のもとに送り続けて、大菩薩禅堂で修行させていたのです。

犠牲者の一人として、この情報は非常に心深く、私を傷つけました。 私はこの情報を、突然、どこからとも無く打ちのめされるような形で知らされるよりも、ZCSで貴女の弟子になる前に、なんらかの方法で教えてもらいたかったと思います。 私の直後の反動は、犠牲者の皆がおそらくそうであろうと思うのですが、それら全部を合わせた、ショック、怒り、恐れ、恥、そして深い悲しみでした。 私は病気になりました。 弁護士の一員として殆ど30年、陵辱をうけた、力のない人々を弁護して働いて来た私の反応は、怒りでした。

私は即座に、もはや、ZSCに座っては居れない事に気付きました。 私は、貴女に、委員会に、一部の親しい僧伽のメンバーに、私の経験を簡単に書き送りました。 私はもっと発言するべきだったのですが、どのように表現したらよいのか、言葉さえ見つからない状態で、もう一つ、家族に対する、又は職業に対する責任感のため、真っ向から立ち向かって戦うよりも、ただ黙って立ち去る事が正しいと信じたのです。 僧伽に対して直接交渉して、不愉快な注目を（再び）浴びることを恐れ、又この事件は私一人に起った事で、荒野の真ん中で独り泣き叫ぶ状態を恐れたのです。

私は何ヶ月もの間、調査し、学び、話し合い、坐禅し、反省し、自問しました。 私の場合、どうしたら一番良いのか？ 私は貴女とZSCの人々が、どのような態度に出るであろうかと見守り、待ちました。 しかし、多くの人々が島野栄道除去を呼びかけている中、貴女はなんら言葉も行動もなく、私は失望しました。（もし、私の知らない所で何か起っているのでしたらあやまります）

島野栄道に絶望的な疑惑を抱いているのは、私だけではないという事を知りました。 私はこの疑惑が、僧伽で表明され、貴女も内々で表明されたと言う事を知りました。 今私はこの弟子達、島野栄道によって犯されたすべての弟子達と一致団結して、何かを成さねばならないと気付き、この手紙を書いて、私の立場を率直に伝えたいと思っています。 貴女が今後も引き続き島野栄道の弟子として彼を支持し、公式に彼をZSS内の影響力ある地位から除く為立ち上がらないならば、貴女を支持する事はできません。

私は、AZTA、貴女の同僚の禅教師達、又数限りない仏教徒の声に貴女の声を加えて下さるよう、心よりお願い致します。

もし貴女がこのような目的の為に私の支持が必要ならば喜んで駆けつけます。

何れにしても、貴女がZSC僧伽で、私に坐禅や戒律を紹介して下さい事は、私にとって非常に貴重なことで、今も感謝しています。

真の達磨が永遠でありますように！

ダイアン